

# 社労士試験の学習ヒント

～社労士試験って、どうやって勉強すればよいの～

## 1. 社会保険労務士試験攻略のポイント

- ①. 社労士試験がなぜ難しいと言われるか？
- ②. 効率的に学習をするための3つのポイント

## 2. 学習対策

- ①. 学習テーマの難易度と出題量の関係からみた学習対策
- ②. 択一式対策と選択式対策の学習バランス
- ③. 科目別に見た学習のウェイト
- ④. 学習時間の確保



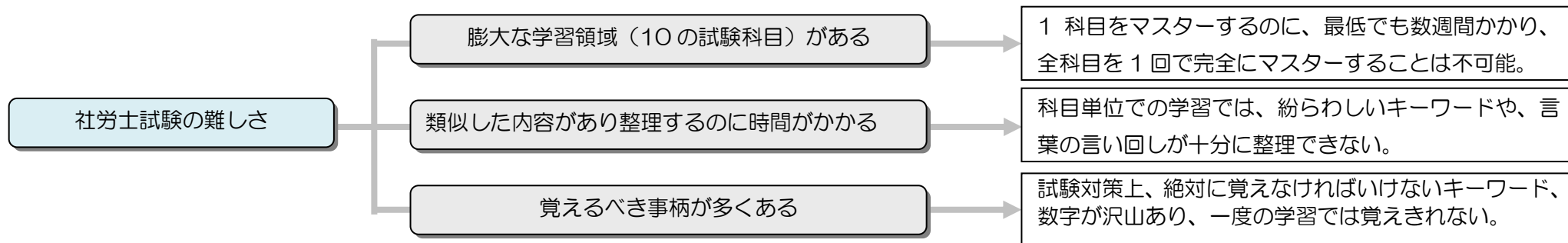
# ワイワイ カレッジ

社労士受験オンライン講座



# 1. 社会保険労務士試験攻略のポイント

## ①. 社労士試験がなぜ難しいと言われるか？



## ②. 効率的に学習をするための3つのポイント

### (1) 試験傾向に即した学習

#### 膨大な学習領域（10の試験科目）があること

まず、科目を体系的に把握することが必要となります。その上で、重要テーマを見極め（時間をかけるべきテーマなのか、捨てるべきテーマなのか）をし、学習の時間配分をすることが、膨大な学習領域を効果的に攻略する絶対条件となります。また、各テーマについても、どのレベルまで理解しなければいけないのか、どのレベルのポイント（キーワード）を覚えなければいけないのかを把握することが必要となります。

### (2) 横断的（科目ごとの縦割りの学習でなくテーマごとの横割りの学習）な学習

#### 類似した内容があり、整理するのに時間がかかること

各法律ごとに類似している内容は、科目単位での学習では整理できません。一通りの学習を終えた時点で、類似した項目ごとにポイントを整理することが必要となります。各法律ごとに共通するポイントと異なるポイントをうまく整理することは、社労士試験を効率的に攻略する絶対条件となります。また、関連事項についても整理することが必要となります。

### (3) 試験傾向に即した暗記

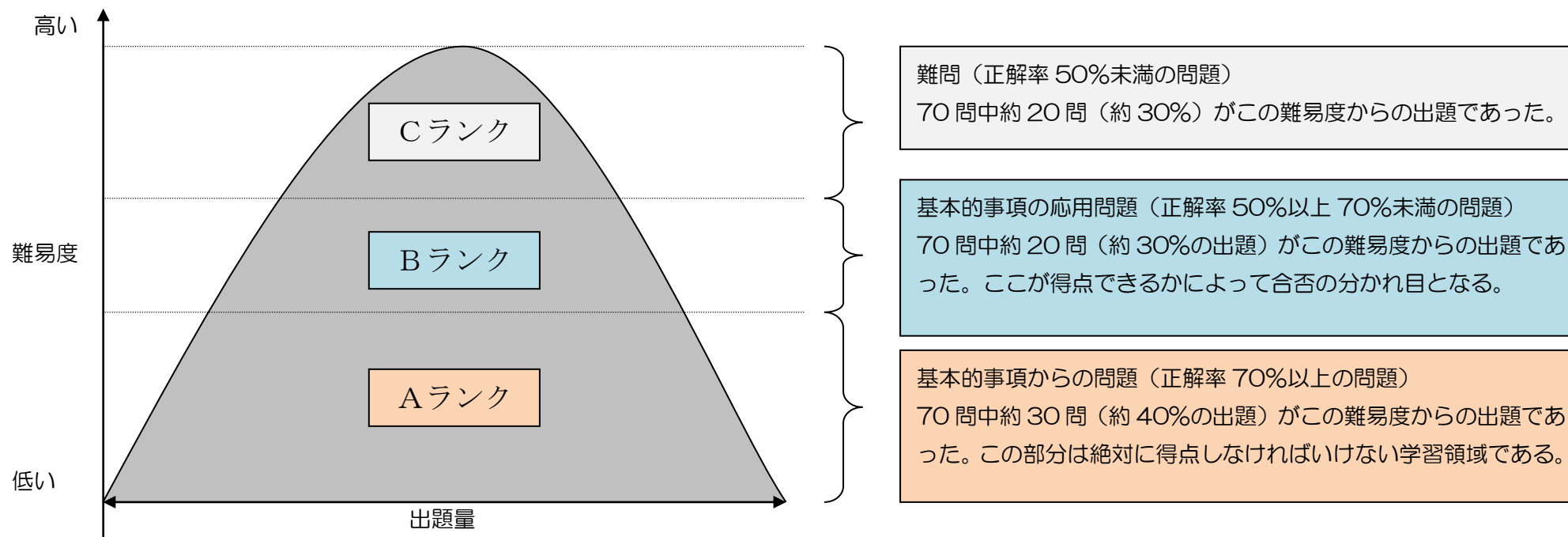
#### 覚えるべき事柄が多くあること

暗記すべきポイントには、理解に基づいた上での暗記が必要となるものと、単純に暗記すれば足りうるものがあります。出題傾向に則し、理解度を問われることが多いテーマなのか、数字やキーワードをしっかりと覚えているかを問われるテーマなのかを見極めて取り組む必要があります。

## 2. 学習対策

### ①. 学習テーマの難易度と出題量の関係からみた学習対策

例年択一式試験の分析結果からみた難易度と出題量の関係



基本的事項からの問題（Aランク）と、基本的事項の応用問題（Bランク）で7割をクリアできることとなります。例年の択一の試験では、合格ラインが45点～48点であることを考慮すれば、基本事項と基本事項の応用がマスターできれば合格できることとなります。合格するためには、満点を取る必要はありません。多くの受験生が得点できる基本事項を取りこぼさないことが重要なのです。

興味がある分野で細部が気になる部分は、試験合格後に学習することとして、受験のための学習においては、難解な部分や細かな部分を深追いしない学習方法も効率的な手法であると考えられます。

## ②. 択一式対策と選択式対策の学習バランス

結論から先に言うと、学習の優先順位としては、選択式は後回しにして、まずは**択一式試験の問題が合格ラインに到達できるレベルまで仕上げる**とよいでしょう。

択一式試験の過去問は、すべての受験生が対策してくる問題であるため、正答率は9割以上となるまで精度を高めるのが理想のラインです。

また、問題演習のみの学習では、知識が断片的になりやすいため、テキストなどの基本書での学習と問題演習を並行して行くと、**体系的な知識が身につく、得点力がアップ**します。**テキストを読んで問題を解く、そしてテキストに戻り再確認する、この繰り返し**が社労士試験学習の王道です。

択一式試験の問題が合格ラインに到達できるレベルまで学習が進むと、選択式試験の対策は8割から9割ぐらいできていると言っても過言ではありません。残りの1割から2割の対策は、**厚生労働白書や労働経済白書、統計調査の報告書関連の一般常識対策**のほか、**労働関係の最高裁判所判例対策**となります。これらは、学習範囲が途方もなく広がってしまうため、**社労士受験用にまとめられた資料や冊子**を活用して、ポイントを押さえて対策をしておくとう率がよいものとなります。

## ③. 科目別に見た学習のウェイト

社労士試験では、一般的に10の法令科目が考えられます。

◀ ①労基、②安衛、③労災、④雇用、⑤徴収、⑥健保、⑦国年、⑧厚年、⑨労一、⑩社一 ▶

これらの10の法令科目をまんべんなく学習してまんべんなく得点するに越したことはないのですが、試験合格という観点、試験対策的な視点でみると、まずは、**主要科目と呼ばれる6つの科目**◀①労基、③労災、④雇用、⑥健保、⑦国年、⑧厚年▶をマスターできるように**優先的に学習を始める**とよいでしょう。

その理由は、択一式試験の得点配分にあります。これら6つの主要科目で満点70点中の51点分（約73%）が出題されるためです。これら**6つの主要科目で合格基準得点に到達のための基礎部分をしっかりと稼ぐ**必要があります。

そして、残る4つのサブ科目で**プラス $\alpha$ の得点が得られれば、安定して合格ラインに到達できる実力が身につくもの**と考えられます。（ただし、試験では科目別の最低基準点が設けられるため、残りの4科目を未対策はNG）

## ④. 学習時間の確保

どんな資格試験の受験においても、誰も短い学習時間でサクッと合格したいと考えるものです。しかし、社労士試験の合格率や試験の範囲の広さからみて、既にお気づきだとは思われますが、**正直に書いてしまうと、結構な学習時間が必要**となります。

社労士試験の学習内容は、法令関係の専門的な分野ではありますが、試験合格するために最低限必要な知識に限って言えば、そこまで高度な、難解な内容は多くはありません。多くの受験生が得点できる基本事項を確実に得点することが最優先となり、そのための学習は、基本事項を記憶に定着させ、問題が解けるレベルまでの理解ができるまで、**何回も何回も繰り返し基礎を固める学習が中心**となります。

つまり、**コツコツと努力を積み重ねてマスターしていく学習**となるため、**必然的に多くの学習時間が必要**となるのです。もちろん、資格試験慣れした受験勉強のコツが会得できている方や、いわゆる地頭が良いと言われる方は短時間で学習が終わると思われそうですが、大半の受験生は、学習時間の捻出に苦労している姿を見かけるため、ここでは、あえて正直に記載をした次第です。

でも、安心してください。学習時間の確保の方法は、いろいろありますが、何も机に向かって学習する時間だけが学習時間ではありません。いわゆる隙間時間を活用して、移動中の合間に問題を数問解いてみたり、家事の最中に講義をBGM代わりに流したり、仕事のお昼休みに毎日5分とかだけでもテキストを読んだり、このような**小さな積み重ねで学習時間を確保すればよい**のです。

**学習時間を確保する努力が、試験対策においては大切な事項の一つ**となります。